

平成十七年一月もあと数日で二月になろうとしています。意外と暖冬ですが、インフルエンザの患者さんも少しずつ増えています。うがい、手洗いが予防には最適です。ぜひ励行しましょう。

さて今回のブツブツ章はCPAについてです。CPAとは心肺停止患者さんのことを指します。CPAになり四分間放置されると、脳に非可逆的障害が残ると言われています。ですからBystander CPR（そばにいる人による心肺蘇生術）が必要です。早くCPRを開始することで蘇生率、社会復帰率が上がります。また最近では駅や空港でAED（半自動式除細動器）を設置し始めています。Bystander CPR, AEDについては最寄の消防署で簡単な講習を受けることで一般の方でも使用することができるそうです。

当院は救急告示病院として数多くのCPR患者さんが搬入されてきます。しかし残念ながら家庭内でのCPRはほとんど為されておらず、せつかく心拍が再開しても恒久的な脳の障害が残ってしまうことが多い状況です。ぜひ他人事ではなく自分の家族を守るためにもCPR講習を受講されませんか。

先日当院の受付前でCPAになられた方がおられました。その場におられた患者さん達はびっくりしていましたが、「DR. hurry, DR. hurry」と全館放送が鳴り、あっという間に50〜60人の職員が集まりCPRが開始され、救命室に運ばれ、その後蘇生し、心臓の治療を受け、二日後には意識も戻り、今では何事も無かったように回復されました。この患者さんは院内で発生したCPAですから救命でき、しかも社会復帰できます。しかしもし家庭から救急搬送される場合はBystander CPRに係ってきます。救急車が119番通報から現場に到着するまで平均四分というデータがあります。ぜひ皆さん、CPR講習を受けてください。

当院は開院してまだ二年も経たない若い病院です。「投書箱」には数多くの叱咤激励の文章が入っており、その内容につきましては公表し回答をいたしております。貴重なご意見をいただき大変ありがとうございます。最近少しずつですがお褒めのお言葉をいただけるようになりました。ご指摘、注意される文章より、お褒めの言葉が上回りますよう努力して行きたいと考えておりますので、お気付きのことがございましたら、どんどん投書いただければと思います。

